

月次レポート

第23号
2010年10月8日作成

ユニオンファンド

追加型投信／内外／株式
分配金再投資専用

～ マークのなかに託した私たちの想い ～
4世代(おじいちゃん・おばあちゃん、熟年世代、勤労世代、
お子さんやお孫さん)をあしらいました。
ハンドinハンドで親近感や繋がり・絆を深め、
幸せの輪をひろげようという想いを込めています。



Union Asset Management Inc.
ユニオン投信株式会社

「ユニオンファンド」の「月次レポート」(2010年10月8日作成)をお届けします。

運用状況のご報告

ユニオンファンド概況



組入れファンドの内訳 (組入比率は9/30 付け)

ファンド名	主な地域	組入比率	目標組入比率	目標比
さわかみF	日本	19.1%	20%	-0.9%
キャピタルF	欧米	17.3%	18%	-0.7%
ハリスF	欧米	19.4%	20%	-0.6%
コムジェストF	イギリス	41.2%	42%	-0.8%
キャッシュ	—	3.0%	—	—

ファンドマネージャー コメント

「人口増加と高成長」について

数ある長期予測のなかで一番的確なのが「人口」予測であると言われています。
その意味では人口動態を分析することが高成長市場を見極める近道であると言えます。

「株価」と「名目 GDP」

「株価」は「名目 GDP」と連動する傾向にあります。
したがって、「名目 GDP」の高い地域・国の「株価」は相対的に高いリターンが期待でき、低い地域・国の「株価」は相対的に低いリターンしか期待できない、とすることができます。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

「名目 GDP」を決める主な要因は、「人口」「技術革新・資本」「物価」などです。

「名目 GDP」は、①生産、②所得、③消費 という3つの顔を持ちますが、「生産」面からは次のように説明できます。

- ◇「人口」「労働力」が多ければ、生産量を高められる(=数量増)
- ◇「技術革新・資本」が多ければ、一人当たりの生産性を高められる(=数量増)
- ◇「物価」上昇率が高ければ、値上げし易い(=価格増)

「名目 GDP」は上記のような要因によって決まってくると言えます。

「新興国」と「先進国」の「名目 GDP」は次の様に比較することができます。

項目	新興国	先進国
「人口」伸び率	高い	低い
「技術革新・資本」	中	中
「物価」上昇率	高い	低い
「名目 GDP」伸び率	高い	低い

したがって、「名目 GDP」伸び率の高い「新興国」の方が長期的・相対的に高い「株価」リターンが期待できると言えます。

「人口増加」と「名目 GDP」

上記「人口」「技術革新・資本」「物価」のなかで最も信頼できるのが「人口」です。

そして、高い「人口」伸び率が「新興国」の高成長を支えています。

今後 40 年間の「人口」予測は下記(表およびグラフ1~3)の通りです。〈予測:国連〉

(単位:億人)

	2010年	2050年	増加
新興国	58	80	22
先進国	11	12	1
世界	69	92	23

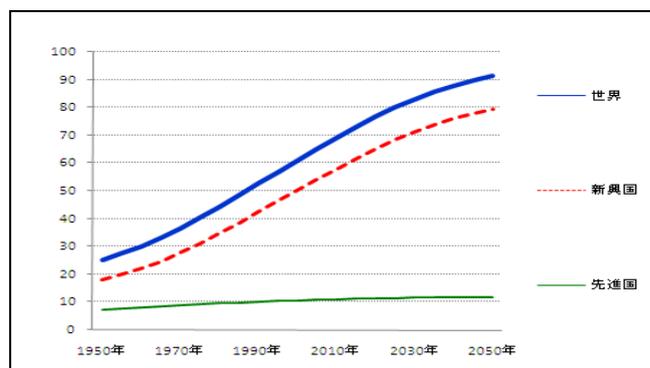
	2010年	2050年	増加
中国	13.5	14.2	0.7
インド	12.1	16.1	4.0
アジア(中・印除き)	16.0	21.9	5.9
中南米	5.9	7.3	1.4
アフリカ	10.3	20.0	9.7
新興国	58	80	22

	2010年	2050年	増加
日本	1.3	1.0	-0.3
米国	3.2	4.0	0.8
ドイツ	0.8	0.7	-0.1
その他	5.7	6.3	0.6
先進国	11	12	1

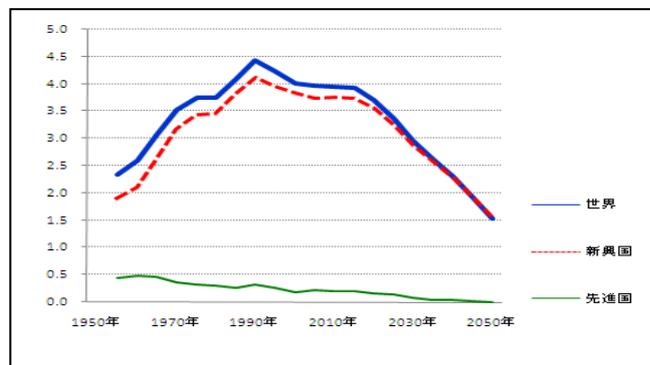
- ・世界の増加人口 23 億人のうち 22 億人が新興国
- ・中国は 2030 年に人口増加がストップし、以後減少へ
- ・インドは人口増が続き、中国を抜いて世界一の人口大国に
- ・中・印除くアジアも大幅な人口増
- ・アフリカは人口が倍増し最大の増加地域に
- ・日本・ドイツは人口減少
- ・先進国では唯一米国のみが人口増加

1. 世界・新興国・先進国

1)人口推移 (単位:億人)



2)人口増減率推移 (単位:%)



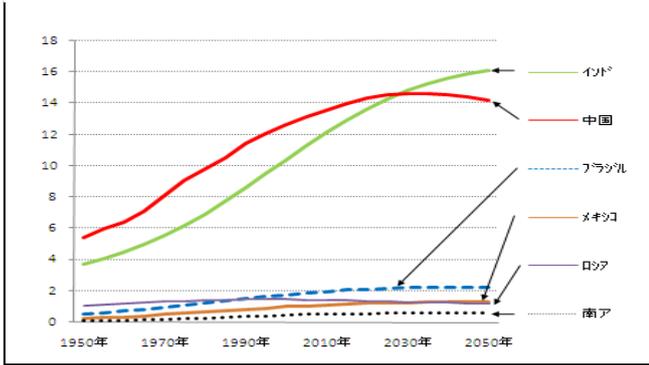
◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

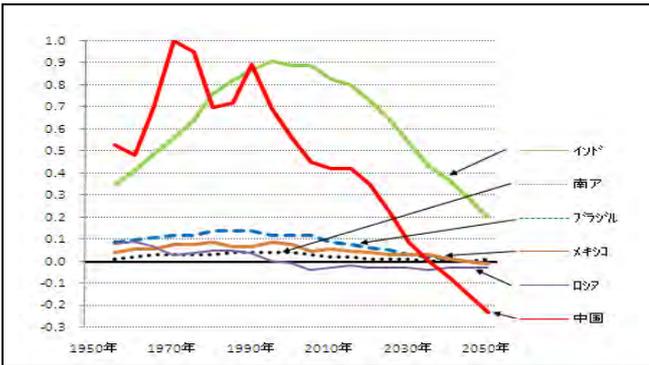
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

2. 新興国

1)人口推移 (単位:億人)

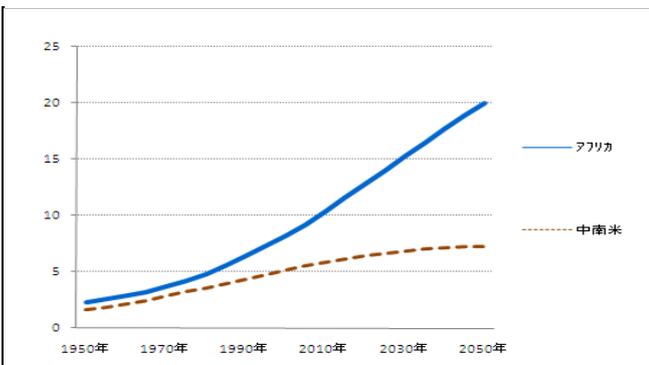


2)人口増減率推移 (単位:%)

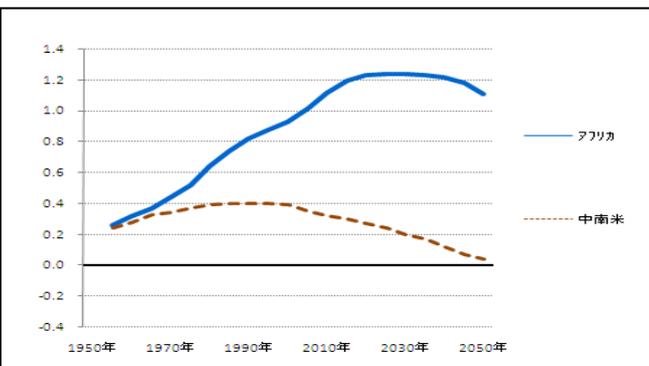


3. アフリカ・中南米

1)人口推移 (単位:億人)

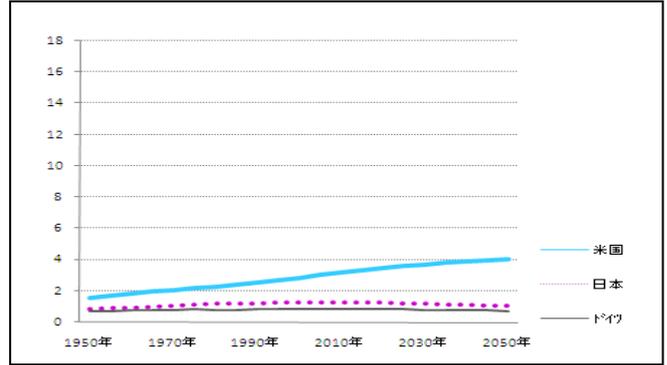


2)人口増減率推移 (単位:%)

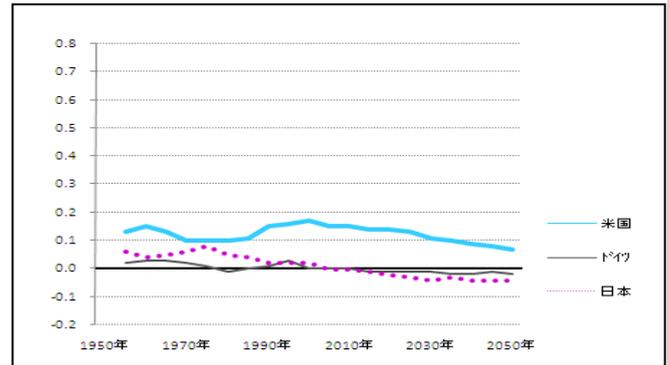


4. 先進国

1)人口推移 (単位:億人)

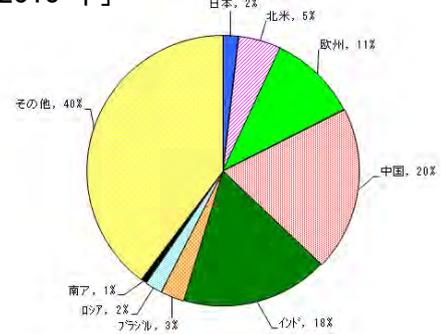


2)人口増減率推移 (単位:%)

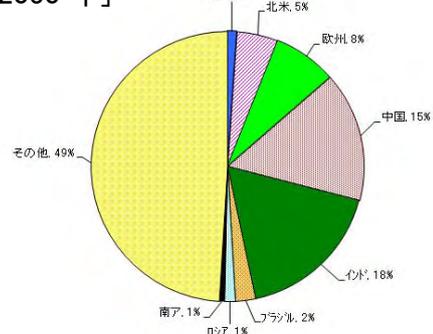


《参考:世界の人口シェア》

[2010年]



[2050年]



◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

「人口」増加と「購買力」増大

上記予測では、アフリカが最大の人口増加地域と見込まれています。

しかし、アフリカが高成長するかどうかはわかりません。

高成長するには「生産力」「仕事力」が必要ですが、アフリカの場合「社会インフラ」「教育」などの面で不安があります。「生産」が増え、「所得」が増え、「購買力」が付いて豊かになるにはまだ時間がかかると思われるからです。

一方、BRICs(ブラジル・ロシア・インド・中国)などの場合は「人口」増加と「購買力」増大が結びついています。

「社会インフラ」を整備し、人々を「教育」することで「生産力」を身につけ「仕事」を得ているからです。

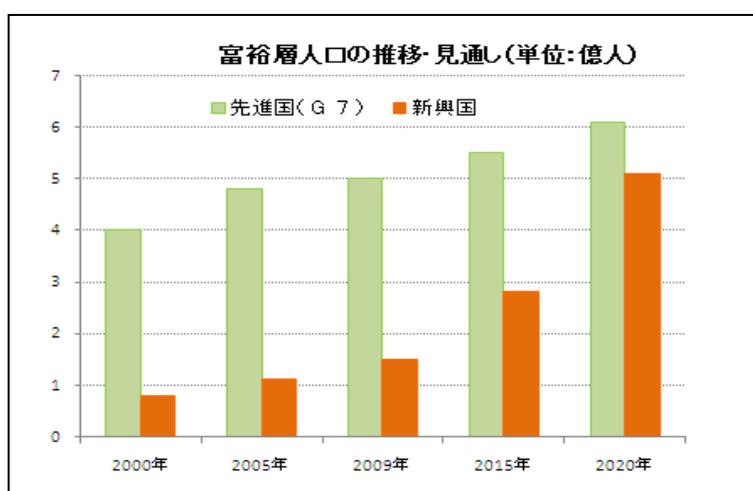
「仕事」増を通じて「所得」が増え、中間層・富裕層が増大して「購買力」が拡大し、その結果「消費」が増えて「名目 GDP」が上昇しています。

このため、「株価」は長期上昇トレンドにあります。

Euromonitor International 社は、先進国・新興国の富裕層人口推移を次のように予測しています。

(億人)

	2009年	2020年	増加
先進国	5.0	6.1	1.1
新興国	1.5	5.1	3.6



(出所)* Euromonitor International 社

*:一般消費財の国別市場について30年以上の経験を持つ調査会社です。
全世界の消費財市場や国別総計、消費者動向などの情報に定評があります。

2020年までの新興国の富裕層人口増加数は、先進国の3倍以上という予測です。

この富裕層増加は購買力増大・消費拡大を通じて新興国の経済成長を牽引します。

したがって、BRICsなど早めに体制を整えた新興国は、今後長期に渡り高成長を続けることが可能であると考えます。

【ユニオンファンドは新興国組入比率を高め維持】

新興国の株価は、短期的に上下に大きくブレる傾向がありますが、長期的には高い成長性から高リターンが期待できると考えています。

このため、ユニオンファンドでは新興国の投資比率を株式時価総額シェア比で高め維持しています。

現状では、新興国の時価総額シェア「34%」に対しユニオンファンドの新興国組入比率は「42%」としています。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ 運用報告

■ ユニオンファンドは、

①「株式」に投資する ②「グローバル」に投資する ③インデックスでなく「アクティブ」に投資する、
ファンドの中から実績を挙げてきた4つのファンドに投資しています(ファンド・オブ・ファンズ)。

■ ユニオンファンドはグローバルな成長を平均的・安定的に享受するため、世界の株式市場シェアを基準に「地域別目標投資比率」を決めています。現状では、世界の株式時価総額シェアに比べ、「日本」と「新興国」のウエイトを高めとし、「欧米」を低めとしています。

「日本」 : 低成長市場だが身近な精通した市場
「新興国」 : 伸び盛りの高成長市場
「欧米」 : 成熟した低成長市場

■ 9月の世界の株式市場は上昇しました。8月に続き9月も欧米での弱い経済活動、新興国での金融引き締め、日本での円高急進、などが継続しました。しかし、①世界各国での景気刺激策が再度模索され始めたこと、②金融緩和で過剰流動性が増大したこと、③債券が割高となり、株式に割安感がでてきたこと、などから株式市場にも資金が流入した結果と思われれます。

■ 9月の基準価額推移…初旬(9/1)に安値 12,112 円を付けた後、一本調子で上昇し 9/22 に高値 13,185 円を付け、その後も堅調に推移して月末(期末)は 13,160 円で終了しました。

■ 長期投資の観点からはまだ割安な水準にあると判断しており、「強気」スタンスを継続し「フル運用」を続けています。9月中の組入れ比率は 97~98%で推移し、平均 98%、月末は 97%となっています。

■ 今後の運用方針

● 今後の市況見通し

- ・現状は、世界の経済活動がやや縮小する一方、再度の金融・財政政策によって更なる縮小が抑えられ、次の回復が期待されている状況と言えます。
- ・当面、日本・欧米は低成長が続く見通しですが、新興国が引き続き高い成長を維持していくと考えています。
- ・市場は当面小さな範囲内で上下に推移するものと考えていますが、現状はまだ割安なゾーンであると判断し、引き続き強気スタンスで臨みます。

● 目標投資比率

現状は「投資妙味のあるタイミング」と判断しています。

このため現在「フル運用」状態にありますが、上下に振れる可能性もあり「枠」としては引き続き投資比率を「85~100%」として、柔軟に対応していきます。

● 地域別目標投資比率

現在の「地域別目標投資比率」を維持します。

…日本:20%、欧米:38%、エマージング:42%

● ファンド選定

当面、現在の4つのファンドに投資していきます。

● ファンド別目標組入比率

現在の「ファンド別目標組入比率」を維持します。

⇒「さわかみF」:20%、「キャピタルF」:18%、「ハリスF」:20%、「コムジェストF」:42%

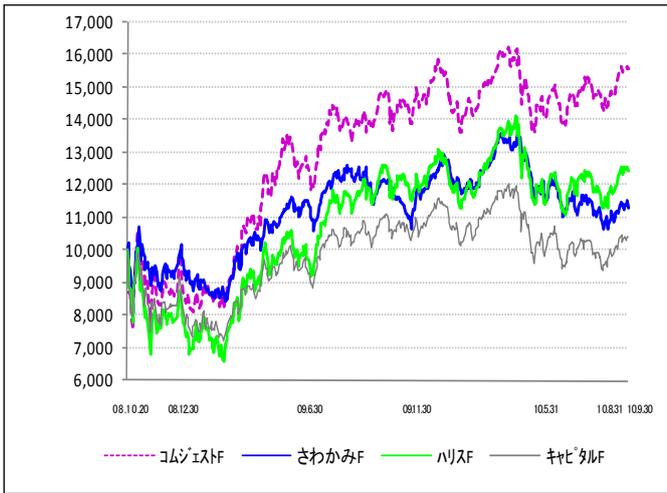
◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

「ユニオンファンド概況」補足コメント

■ 図1 組入ファンドの基準価額推移(2008. 10. 20=10,000)



>> 図1 基準価額推移

2009年3月以降4ファンドとも右肩上がり。このうち先進国3ファンドが「景気2番底」懸念などから下落した後やや回復。9月1カ月間の騰落率は次の通り。
 ……「コムジェストF:6.5%」、「ハリスF:7.9%」、「さわかみF:4.4%」、「キャピタルF:7.2%」。

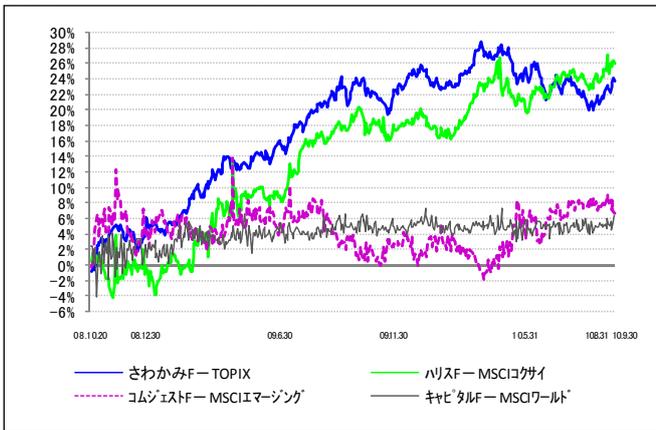
>> 図2 相対パフォーマンス

4ファンドともインデックスを上回るパフォーマンス。「さわかみF」……設定来では約24%凌駕。最近の円高を乗り切りつつある。「ハリスF」……概ね25%凌駕。「キャピタルF」……安定的に5%凌駕。「コムジェストF」……設定来で6~8%凌駕。軟調な市況のなかで防衛的な銘柄選択が奏功し堅調な相対パフォーマンス。

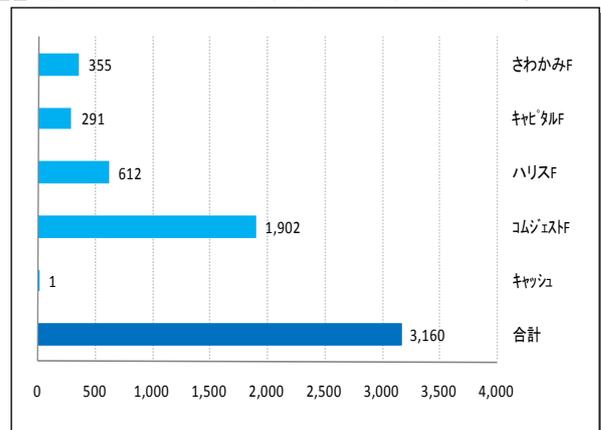
>> 図3 寄与額

9月末の基準価額が13,160円となっているため、3,160円の評価益に。その内訳を4ファンドに分解すると第3図の通り4ファンドともプラス寄与。なかでも「コムジェストF」の貢献が大きい。

■ 図2 組入ファンドの相対パフォーマンス(インデックスとの比較)



■ 図3 組入ファンドの基準価額への寄与額(円、概算値)



>> 図4 時価総額シェア・目標投資比率

時価総額シェア…「新興国」:リーマン・ショック時の08年10月を底に上昇基調。「欧米」:低下基調。「日本」:円高要因などから低下基調。

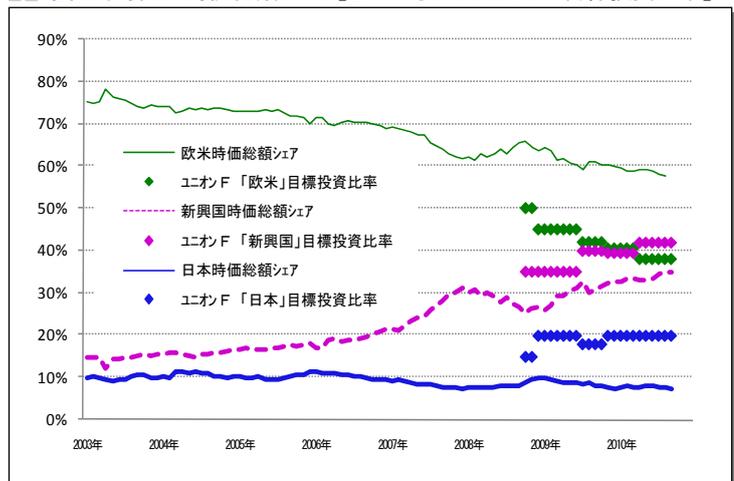
「地域別目標投資比率」

- 日本 :20%(シェア比+13%)
- 欧米 :38%(シェア比▲20%)
- 新興国 :42%(シェア比+7%)



運用部長 (ファンドマネージャー)
 坂爪 久男

■ 図4 世界の「時価総額シェア」とユニオンファンドの「目標投資比率」



(出所)「時価総額シェア」:ユニオン投信株式会社調べ

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
 ◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。
 ◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

組入れ4ファンドの状況

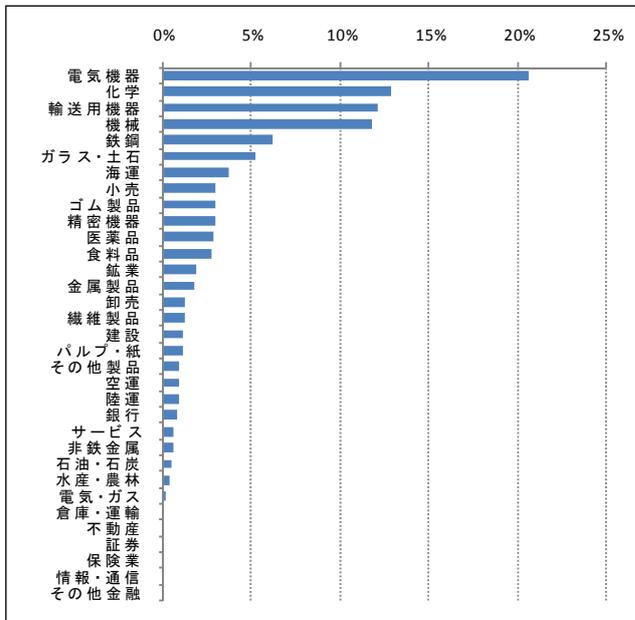
■ さわかみF（さわかみファンド）

■ 株式組入上位10銘柄等

2010年9月末現在

	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	トヨタ自動車	3.9%	日本	輸送用機器	自動車世界トップ
2	商船三井	3.7%	日本	海運	タンカー・LNG 船で世界一
3	リコー	3.3%	日本	電気機器	事務機大手
4	パナソニック	3.1%	日本	電気機器	総合家電首位
5	ブリヂストン	2.8%	日本	ゴム製品	タイヤ世界首位
6	三菱重工	2.6%	日本	機械	世界的総合重機メーカー
7	花王	2.3%	日本	化学	トイレット紙首位
8	国際石油開発帝石	1.8%	日本	鉱業	石油メジャー
9	セブン&アイ	1.8%	日本	小売	日本最大の小売グループ
10	デンソー	1.8%	日本	輸送用機器	日本最大の自動車部品メーカー
上位10銘柄		27.0%			
その他140銘柄		72.1%			
キャッシュ		0.9%			

■ 業種別構成比



業種：東証33業種

構成比：現物ポートフォリオに占める比率（キャッシュ含まず）

>> ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆組入銘柄数は約150。
業種のメリハリを効かせることで個性あるポートフォリオを作り上げている。
- ◆具体的には、
 - (1) 「電気機器」「化学」「輸送用機器」「機械」「鉄鋼」など“ものづくり”，“輸出型”企業の比率大。
 - (2) “内需型”企業では「金融」「通信」「不動産」「倉庫」などの比率を抑え、「小売」「医薬品」「食料品」など“生活関連”にシフト。
- ◆中小型銘柄の見直しは一巡。大型・国際優良株の比率が高まる。
9月も株価堅調な銘柄の一部を利食い、大きく値を下げた“ものづくり”，“輸出型”銘柄を幅広く買い増し。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

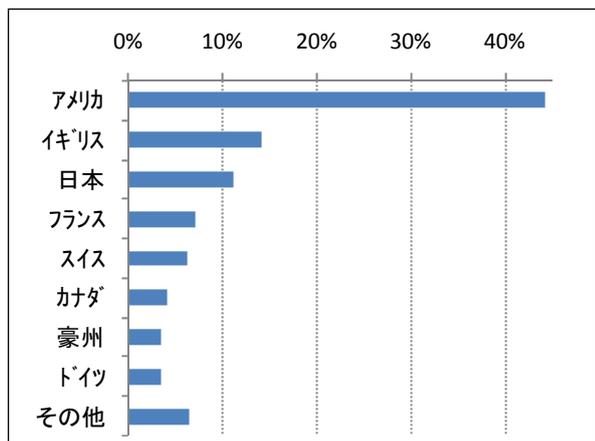
■ 株式組入上位 10 銘柄等

業種: MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター

2010 年 8 月末現在

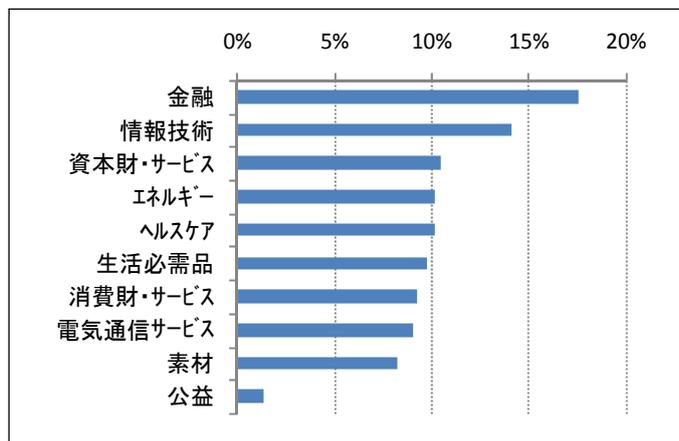
	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	Royal Dutch Shell	2.5%	オランダ	エネルギー	石油ガス
2	Merck	2.1%	アメリカ	ヘルスケア	医薬品大手
3	Procter & Gamble	1.9%	アメリカ	生活必需品	家庭用品世界的大手
4	Bouygues	1.8%	フランス	電気通信サービス	通信大手
5	JPMorgan Chase	1.8%	アメリカ	金融	世界トップバンク
6	Lloyds Banking	1.7%	イギリス	金融	銀行大手
7	Target	1.7%	アメリカ	消費財・サービス	小売チェーン大手
8	Google	1.7%	アメリカ	消費財・サービス	世界最大のネット検索
9	Roche	1.6%	スイス	ヘルスケア	医薬品大手
10	American Tower	1.5%	アメリカ	電気通信サービス	携帯サービス
上位 10 銘柄		18.3%			
その他		80.7%			
キャッシュ		1.0%			

■ 国別構成比 (マザーファンド)



構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

■ 業種別構成比 (マザーファンド)



業種: MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター

構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

≫ ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆ 日本を含む先進国に幅広く投資 (約 200 銘柄)。
- ◆ インデックスに対し大きな偏りをとらず、長期間の安定的な超過収益を狙うファンド。
- ◆ 半年前に比べ、「情報技術」「エネルギー」が増加。
- ◆ 最近、大きな変化なし。

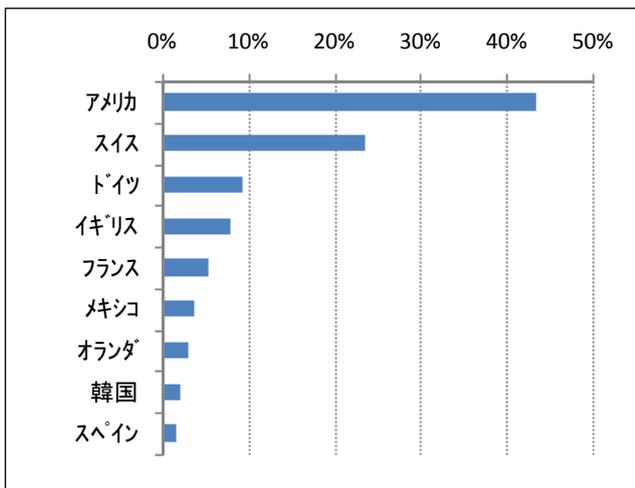
◆ このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
 ◆ 当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。
 ◆ このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ 株式組入上位 10 銘柄等

業種: MSCI 世界産業分類基準の 24 グループ 2010 年 8 月末現在

	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	INTEL	5.6%	アメリカ	半導体・同製造装置	世界最大の半導体メーカー
2	JULIUS BAER	3.9%	スイス	各種金融	プライベートバンク
3	CARNIVAL	3.3%	アメリカ	消費財・サービス	クルーズ客船
4	FRANKLIN RESOURCES	3.3%	アメリカ	各種金融	資産運用(フランクリン テンプルトン)
5	BANK OF NEW YORK MELLON	3.2%	アメリカ	各種金融	金融大手
6	SAP	3.2%	ドイツ	ソフトウェア・サービス	ソフトウェア世界展開
7	ALLIANZ	3.2%	ドイツ	保険	総合保険大手
8	CATERPILLAR	3.1%	アメリカ	資本財	建設機械世界トップ
9	CREDIT SUISSE	3.1%	スイス	各種金融	金融大手
10	UBS	3.1%	スイス	各種金融	金融大手
上位 10 銘柄		35.0%			
その他 32 銘柄		59.3%			
キャッシュ		5.7%			

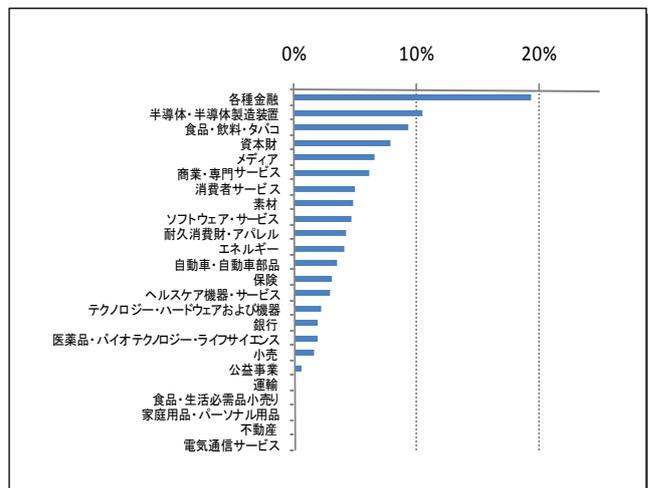
■ 国別構成比 (マザーファンド)



構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

■ 業種別構成比 (マザーファンド)

※2010 年 9 月末現在



業種: MSCI 世界産業分類基準の 24 産業グループ
構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

≫ ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆ 割安な 40 銘柄程度に絞り込んで運用するファンド。日本除く世界各国に投資。
- ◆ 「金融」セクターが引き続き最大の投資セクター(組入比率: 約 25%)。金融不況を乗り越えていける競争力の強い銘柄で かつ 割安な金融株に投資。
- ◆ それ以外では、業績好調な「半導体関連」、安定的業績の「食品」や「メディア」、株価割安な「資本財」などにウェイトを高めている。
- ◆ 最近半年では、「ヘルスケア」「食品」「商業サービス」「素材」や「ソフトウェア」などの比率をアップ。

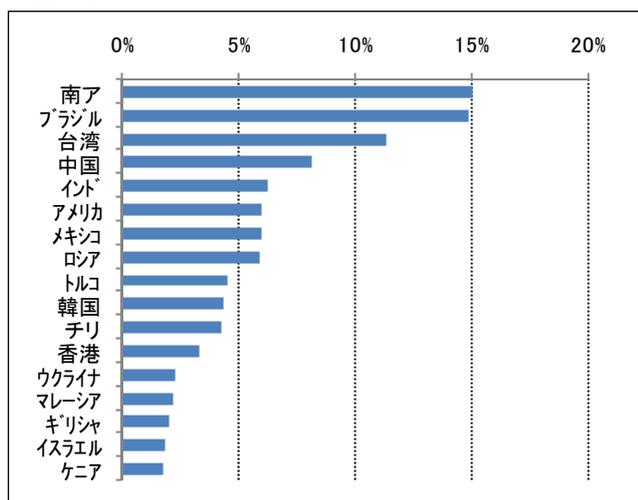
◆ このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆ 当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。
◆ このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ 株式組入上位 10 銘柄等

業種:MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター 2010 年 9 月末現在

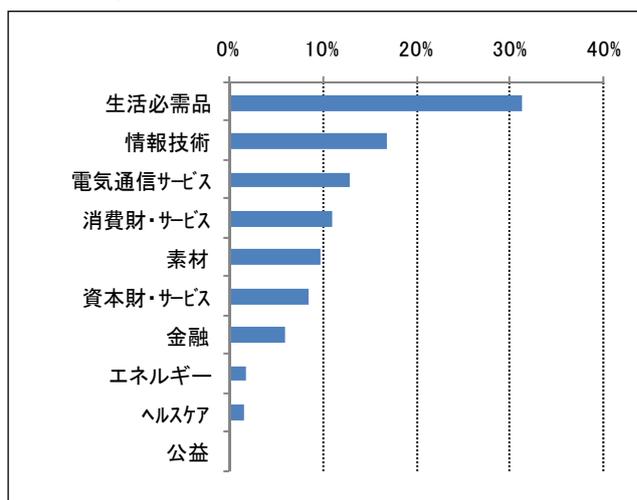
	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	TAIWAN SEMICONDUCTOR	4.8%	台湾	情報技術	半導体メーカー
2	MTN	4.7%	南ア	電気通信サービス	携帯電話
3	GOLD FIELDS	3.9%	南ア	素材	金鉱開発
4	HTC	3.7%	台湾	情報技術	携帯端末
5	ANGLOGOLD	3.5%	南ア	素材	金鉱開発
6	JBS	3.4%	ブラジル	生活必需品	食肉加工
7	BUNGE	3.3%	アメリカ	生活必需品	植物油精製販売
8	AVON PRODUCTS	2.6%	アメリカ	生活必需品	化粧品世界展開
9	NASPERS	2.5%	南ア	消費財・サービス	メディア
10	NATURA COSMETICOS	2.4%	ブラジル	生活必需品	化粧品
	上位 10 銘柄	34.8%			
	その他 32 銘柄	62.0%			
	キャッシュ	3.2%			

■ 国別構成比 (マザーファンド)



構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

■ 業種別構成比 (マザーファンド)



業種: MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター
構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

≫ ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆新興国の割安な 50 銘柄程度に絞り込んで運用するファンド。
- ◆財務体質健全、積極的な情報開示、株価割安な企業に選別投資。
- ◆高成長新興国中心のポートフォリオ。
- ◆新興国市場の主役が「資源・エネルギー」や「金融関連」であるのに対し、「生活必需品」・「情報技術」・「通信関連」などの安定・成長セクターに高ウエイト。そのため、市況の下落局面では相対的に良好なパフォーマンス。
- ◆一方最近では、景気敏感セクターに一部シフト中・・・「通信関連」ダウン、「素材」アップなど。
- ◆BUNGE 社 (組入れ 7 位): アメリカ籍だが南米等新興国で活躍する農産物加工大手。
- ◆AVON PRODUCTS 社 (組入れ 8 位): アメリカ籍だが利益の中心が新興国 (100 カ国・3 億人の顧客)。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

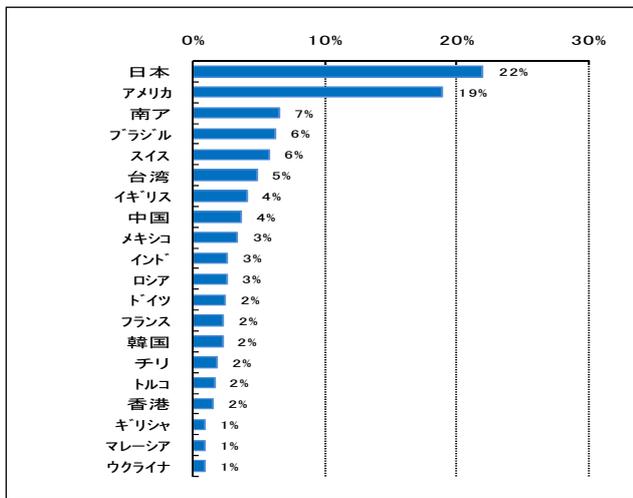
ユニオンファンド(組入4ファンド トータル)の状況

■株式組入上位 30 銘柄等

業種:MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター 2010 年 8 月末現在

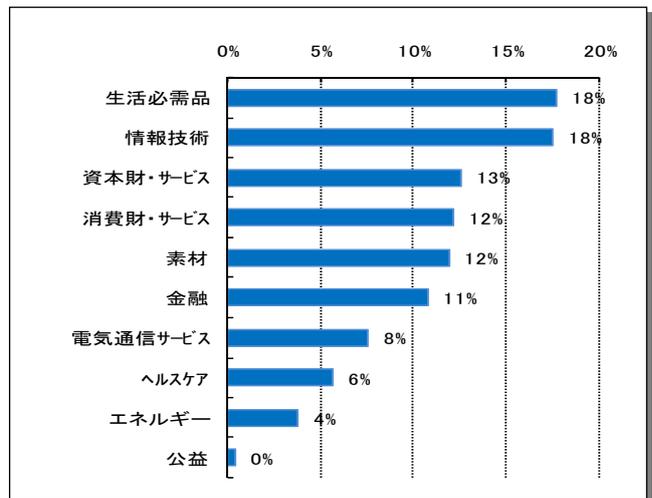
	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等	主要組入F
1	TAIWAN SEMICONDUCTOR	2.1%	台湾	情報技術	半導体メーカー	コムジェストF
2	MTN	2.1%	南ア	電気通信サービス	携帯電話	コムジェストF
3	GOLD FIELDS	1.7%	南ア	素材	金鉱開発	コムジェストF
4	JBS	1.6%	ブラジル	生活必需品	食肉加工	コムジェストF
5	ANGLOGOLD	1.5%	南ア	素材	金鉱開発	コムジェストF
6	HTC	1.5%	台湾	情報技術	携帯端末	コムジェストF
7	BUNGE	1.3%	アメリカ	生活必需品	植物油脂精製販売	コムジェストF
8	CHINA MOBILE	1.3%	中国	電気通信サービス	携帯電話	コムジェストF
9	INTEL	1.1%	アメリカ	半導体・同製造装置	世界最大の半導体メーカー	ハリスF
10	AVON PRODUCTS	1.1%	アメリカ	生活必需品	化粧品世界展開	コムジェストF
11	NATURA COSMETICOS	1.0%	ブラジル	生活必需品	化粧品	コムジェストF
12	商船三井	0.8%	日本	海運	タンカー・LNG 船で世界一	さわかみF
13	JULIUS BAER	0.8%	スイス	各種金融	プライベートバンク	ハリスF
14	トヨタ自動車	0.7%	日本	輸送用機器	自動車世界トップ	さわかみF
15	CARNIVAL	0.7%	アメリカ	消費財・サービス	クルーズ客船	ハリスF
16	FRANKLIN RESOURCES	0.7%	アメリカ	各種金融	資産運用(フランクリン テンプルトン)	ハリスF
17	BANK OF NEW YORK MELLON	0.6%	アメリカ	各種金融	金融大手	ハリスF
18	SAP	0.6%	ドイツ	ソフトウェア・サービス	ソフトウェア世界展開	ハリスF
19	ALLIANZ	0.6%	ドイツ	保険	総合保険大手	ハリスF
20	リコー	0.6%	日本	電気機器	事務機大手	さわかみF
21	パナソニック	0.6%	日本	電気機器	総合家電首位	さわかみF
22	CATERPILLAR	0.6%	アメリカ	資本財	建設機械世界トップ	ハリスF
23	CREDIT SUISSE	0.6%	スイス	各種金融	金融大手	ハリスF
24	UBS	0.6%	スイス	各種金融	金融大手	ハリスF
25	ブリヂストン	0.6%	日本	ゴム製品	タイヤ世界首位	さわかみF
26	三菱重工	0.5%	日本	機械	世界的総合重機メーカー	さわかみF
27	花王	0.5%	日本	化学	トイレット首位	さわかみF
28	Royal Dutch Shell	0.4%	オランダ	エネルギー	石油ガス	キャピタルF
29	SUMCO	0.4%	日本	金属製品	半導体用シリコンエッチャー大手	さわかみF
30	セブン&アイ	0.4%	日本	小売	日本最大の小売グループ	さわかみF
	上位 30 銘柄	27.7%	(注)各組入F開示資料に基づくランキング			
	その他銘柄	70.6%				
	キャッシュ	1.7%				

■国別構成比 (上位 20 カ国)



構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

■業種別構成比



業種: MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター
構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

>> コメント

- ☆組入銘柄数: 約 450、投資国数: 約 30 カ国。
- ☆組入上位 30 銘柄明細: 40 銘柄程度に絞り込んでいる「コムジェストF」「ハリスF」組入銘柄が上位に。
- ☆国別構成比: 日本・アメリカが約 2 割で 1・2 位。
新興国では南ア・ブラジル・中国・メキシコ・インド・ロシアの順。
- ☆業種別構成比: 「生活必需品」「情報技術」が高く、以降「資本財」「消費財」などが続く。
半年前に比べた特徴: 安定成長株の「生活必需品」が増加。
また、新興国のパソコン・携帯・家電需要増加などを受け「情報技術」の比率が上昇。直近では「素材」がややアップ。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

“世界が全体幸福にならないうちは、個人の幸福はありえない”

ユニオン投信株式会社 取締役
清水 学



おはようございます！ こんにちは！ こんばんは！ ユニオン投信の清水学です。

表題の“世界が全体幸福にならないうちは、個人の幸福はありえない”は、宮沢賢治が「農民芸術概論綱要」の序論の中で述べている言葉です。

所詮は「理想論」「綺麗ごと」と感じる部分もあるかと思いますが、“世界の全体幸福”は誰もが望んでいることだと思います。人間は皆それぞれ「理想」は持っているものの「現実」とのギャップに悩み、時には苦しみながら、しかし「理想」に向かって一步一步前に進む努力をしていくのが、「人生」ではないでしょうか？

私たちは普段何気なく生活をしています。

一方、健康に関する不安、将来の生活不安、子どもや孫たちの生活不安(仕事があるか？ 普通に暮らしていけるか？)を感じ、実際に世界中では安全な水さえ飲めず飢餓や重い感染症にかかって命を亡くしている人々が沢山います。

これは決して他人事ではなく、自分や自分の家族が当事者になる場合や、知らず知らず加害者になってしまう場合もあると思います。

まさに“世界が全体幸福にならないうちは、個人の幸福はありえない”・・・この言葉が胸を打ちます。

話が飛躍するように思われるかもしれませんが、投信会社(運用会社)の一番の使命は生活者・勤労者の資産形成・財産づくりのお手伝いです。したがって、会社の余剰利益が出るようになれば、まずは「信託報酬の低減」等お客様への利益還元をし、「株主へ配当金を出す」のが当たり前です。ここまでは一般的なものだと思います。

弊社はこれだけでは終わりません。現在、弊社はセイコーエプソン労働組合とエプソントヨコム労働組合という2つの非営利団体が株主(出資者)となっています。既に両労組とも「株主配当」が出たら、地域の障がい者の経済的自立支援をする、世界で貧困や感染症に苦しむ方々へ仕事そのものやワクチン等を提供する、経済的理由で教育を受けられない子どもたち向けの教育インフラを創る、自然環境保護活動を行うなど、いわゆる社会貢献活動に配当金を使うことを決めています。また、同じ目的・志・想いをを持った複数の労組にも出資参加を検討いただいております。

ユニオンファンドのような投資信託はご存知の通り、元本保証がない金融商品です。しかし、長い目で時間分散(定期定額購入を基本とし不況時や株価暴落・低迷時にはスポット購入)しながら、世界中の「社会になくてはならない」「社会のために存在し続けて欲しい」「社会に貢献できる産業を生み出していく」企業群に直接投資をすれば、投資収益は後からついてくるものと考えています。

なぜか？・・・人々の生活は企業なくしてはあり得ないからです。生活の基本である衣食住も企業が提供しています。寒い日にエネルギーや暖房器具なくして心地よい生活はありえません。冷蔵庫がなくては安定した食生活は難しいと思います。農林水産物においては日本はまだ個人経営が多いと思いますが、肥料や耕運機・漁船、包装用品、運搬等は企業が提供しているため、やはり企業なくしての生活はあり得ません。そもそも、企業なくして雇用・収入もあり得ません。

生活確保や雇用・収入を生んでいるだけでも、大きなリターンがあるのです。

その企業群へ直接投資することが、どれだけ大事なことか分かっていただけたと思います。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

幸福はお金と交換できません。お金があるからといって幸福になれる訳でもありません。

でも、それなりのお金があって(=資産形成・財産づくりをして)、使い方を工夫すれば、誰もが望む“世界の全体幸福”に一步一步近づくことができるのです。

私自身を含む皆さんの一歩が“世界全体を幸福”にする一歩となり、結果的に皆さん一人一人の幸福に繋がると思います。そして、その一歩は、思いやりや助け合い(愛)といった人間が誰でも持っている本能を目覚めさせ、メンタルヘルスの問題解決、障がい者や恵まれていない人々へ手を差し伸べる勇気や行動へと波及していくものと確信しています。

一歩は議論ではありません。具体的かつ簡単な行動です！ その大きな手段の一つが預貯金や保険(貯蓄性のある終身死亡保険や年金保険など)を通じた間接投資のみではなく、企業群への直接投資です。

まずは弊社メンバーと弊社の株主が、そして弊社と志・想いを共有している“チョコハン”投信会社メンバーが、「希望」「明るさ」「元気」「勇気」「チャレンジ精神」「思いやり」「助け合い(愛)」を自分たちの背中(行動+心)で見せていきます。もちろん、既存のお客様および未来のお客様と共(友)にです!!!

繰り返しになりますが、世の中や人々の心が明るくなっていけば、投資収益は自然とついてくるものだと思います。

平成 22 年 10 月 5 日記

『ユニオンファンド』のリスク

一 詳しくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」の「投資リスク」をご覧ください。一

ユニオンファンドは、主に国内外の株式などに投資する投資信託証券等に投資するファンド・オブ・ファンズの方式で運用を行います。組入れる投資信託証券等は、株価変動、金利変動や債券発行者の経営・財務状況の変化等で値動きします。また、為替相場の影響を受ける投資信託証券等もあるため、ファンドの基準価額も変動し、損失を被ることがあります。したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。

当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「価格変動リスク」、「流動性リスク」、「信用リスク」、「為替変動リスク」、「カントリーリスク」などがあります。

『ユニオンファンド』の手数料

一 詳しくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」の「手数料等および税金」をご覧ください。一

【申込手数料】・・・お申込みにあたって弊社にお支払いただく手数料はありません。

※スポット購入時の購入用口座への振込手数料はお客様負担となります。

【換金手数料】・・・ご換金(解約)にあたって弊社にお支払いただく手数料はありません。

【信託報酬】・・・総資産総額に年0.84%(税抜き 年0.8%)の率を乗じて得た額です。

毎日、当ファンドの投資信託財産より控除されます。

[実質的な信託報酬※ 信託財産の純資産総額に対して年1.9%±0.3%(概算)]

※『ユニオンファンド』は他のファンドを投資対象としており、投資対象ファンドにおける所定の信託報酬を含めてお客様が実質的に負担する信託報酬を算出しております。

【信託財産留保金】・・・信託財産留保金はありません。

【その他の費用】・・・『ユニオンファンド』に組み入れるファンドを売買する際に発生する売買手数料およびこれにかかる消費税に相当する額は投資信託財産より控除されます。

※実際の額は、今後組み入れファンドの追加や変更があった場合、変動してくるものであるため事前に料率、上限額等を表示することができません。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

◆ 業務管理部よりお知らせ ◆

◆ お取引残高報告書について ◆

10月上旬に作成基準日（2010年9月30日）時点でのお預り残高口数とお取引履歴をご報告する「お取引残高報告書」を郵送にてご通知いたします。

なお、今回のご報告は平成22年7月～9月中にお取引があったお客様のみに限ります。

「お取引残高報告書」の見方について等、ご不明な点がございましたら弊社業務管理部（TEL:0236-38-0725）までお問い合わせください。

◆ 未成年のお客様の定期定額購入について(補足) ◆

先月のレポートでお知らせいたしました、未成年のお客様の定期定額購入について補足いたします。

【当月の引落しができなかった場合について】

引落先金融機関の口座が「残高不足」等で引落しができなかった場合は、当月の定期定額購入は行ないませんが、翌月以降の引落しは通常通りご指定金額の引落しを行ないます。なお、引落しできなかった分を翌月まとめて引落しすることはできません。

【当月引落しできなかった分の購入をご希望される場合】

毎月“1万円未満”で定期定額購入をご利用の場合、引落しができなかった分を“スポット購入”で充当することはできません。

これはスポット購入の購入可能額「1万円以上1円単位」を満たしていないためです。何卒ご了承ください。

◆ 定期定額購入について ◆

毎月5日(休日の場合は翌営業日)にご指定いただきました金融機関口座より自動引落しされ、8営業日後の基準価額にて購入いたします。なお、“新規申込み”“各種変更”には、締切日がございます。締切日を過ぎて届出書類が弊社へ到着した場合には、ご希望される月からは反映されませんのでご注意ください。

定期定額購入スケジュール

引落開始月	新規申込み 引落口座変更 締切日	金額変更 引落中止 締切日	ご指定の金融機関 口座からの引落日	ファンドご購入日 (約定日)
平成22年11月	締切りました	10月20日(水)	11月5日(金)	11月17日(水)
12月	11月2日(火)	11月18日(木)	12月6日(月)	12月16日(木)
平成23年1月	12月1日(水)	12月16日(木)	1月5日(水)	1月18日(火)

ご不明な点などがありましたら、弊社業務管理部(TEL:0263-38-0725)までご連絡ください。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。